



委員会の行政

文教産業委員会

平成 30 年 10 月 31 日～ 11 月 2 日

愛知県名古屋市 「IoT 及び AI を活用した産業振興」

石川県加賀市 「プログラミング教育を初めとした ICT 教育」

福井県あわら市 「小中学生の学力向上の取り組み」

石川県小松市 「サイエンスヒルズこまつ」



▲学力向上の取り組みについて学び、中学校で授業の様子を見学しました（あわら市）

名古屋市では、産業競争の強化を図るため「なごや IoT ものづくり推進ラボ」を発足し、総合的に高度情報産業の集積・育成を目指していました。

加賀市では、これからの社会を生きる子供たちに必要となる、問題解決能力や論理的思考力を身につけるためのプログラミング教育を推進しています。

あわら市では、読解力の向上に向けて読書を奨励し、百人一首や論語などの古典学習にも力を入れています。特に興味深いのは、中学校で一人の教師が学年をタテに受け持つ授

業の「タテ持ち」です。教師間で授業内容や指導法等を切磋琢磨することで、指導力とモチベーションの向上につながります。福井県では日常的なこれら取り組みの積み重ねが、結果として学力を向上させているとのことでした。

小松市のサイエンスヒルズこまつは「ひとものづくり科学館」と「こまつビジネス創造プラザ」で構成され、松本零士名誉館長の「未来は、みんなの夢の中にある」の言葉どおり、夢と魅力が詰まった施設でした。

これらの先進事例を参考に今後、具体的に調査研究を進めていきます。

平成 30 年 10 月 29 日～ 31 日

群馬県前橋市 「手話言語条例の制定等」

宮城県石巻市 「企業主導型保育所「結のいえ保育園」」

宮城県岩沼市 「岩沼東部環境センター」

民生病院委員会

前橋市では、議員発議による手話言語条例の制定に至る背景や経過、また前橋市手話言語条例の特徴、さらに条例制定後に取り組みされた施策についての視察を行いました。広く手話にかかわる関係団体の参加と協力のもと、勉強会や意見交換会を重ねていった経緯があるとの説明を受け、手話の普及についてのあり方や、手話言語条例の制定の手法などを学びました。

石巻市では、東日本大震災の震災復興という流れの中で、民間企業が独自に運営する企業主導型保育所として開園した結のいえ保育園を視察

し、従業員に対して家族のように親身になって考える社風や独自の人材確保に関する取り組み、そして待機児童対策について視察しました。

岩沼市では、東日本大震災を経たごみ処理施設建設の経緯や周辺自治会との協議、2市2町で構成する一部事務組合の運営などの説明を受け、さらに大地震による津波被害を想定し、施設のみならず施設周辺にも津波対策をした新ごみ処理施設を視察しました。

いずれの事例も、本市としてとても参考になり、今後、調査研究を進めていきます。



▲大地震による津波を想定した新ごみ処理施設を視察しました（岩沼市）